神戸女子短期大学　論攷　58巻　15－22（2013）

－ ノート －

栄養士校外実習における学生の自己評価の実態と課題

－平成23年度の校外実習を終えてのアンケートより－

西川　貴子・森内　安子・今本　美幸・中野佐和子・才新　直子

Results and issues of self-evaluation by students in dietitians' off-campus practice:

Consideration of the results of the questionnaire taken in the academic year 2011

Takako NISHIKAWA, Yasuko MORIUCHI, Miyuki IMAMOTO,
Sawako NAKANO, Naoko SAISHIN

要　旨

校外実習指導に役立てる目的で，平成23年度の校外実習を終えてのアンケートを集計し，学生の自己評価の実態を把握した。その結果，学生の評価が一番高かったのは，時間厳守で，一番低かったのは施設の下調べであった。また，実習施設や実習グループの人数など実習条件が評価に影響を及ぼしている可能性が高いことと，学生の認識と実習先の評価に違いがあるということが推察された。今後さらに検討が必要であるが，意欲や積極性の向上，基本的マナーや態度の周知，調理技術や衛生管理に対する知識や技術の習得，体調管理，実習に臨むための下調べや予習の必要性など，基本的姿勢や基本的知識についての指導の充実が課題である。

キーワード：校外実習　自己評価　基本的姿勢　積極性

はじめに

栄養士養成課程カリキュラムの必修科目として校外実習１単位がある。学生たちは１週間，病院・事業所・高齢者福祉施設・保育園・幼稚園・学校給食共同調理場などの特定給食施設で，栄養士や管理栄養士の指導を受けて，給食の運営に係わる実習を行う。

食物栄養学科では，校外実習指導にあたって，学科内で役割分担をして校外実習担当の係りを作って実施している。校外実習担当係は，実習先の確保や班編成，実習事前指導などを中心になって行い，学科の全教員は30数施設を分担して引率にあたり学生指導を行っている。

実習終了後の施設の評価は，まじめによく取り組んだとよい評価を受ける施設もあるが，反対に態度やマナーができていないと厳しい評価を受ける施設もある。

そこで，学生に実習終了後に自己評価として回答させている「校外実習を終えてのアンケート」を集計して学生の自己評価の実態をまとめることにした。今までは，次年度の学生の参考

のために，自己評価アンケートを実習前に閲覧させるという活用のみであった。今回は，今後の学生指導に役立てる目的で，平成23年度の担当者で，学生の自己評価アンケートを集計し，問題点を抽出したので報告する。

実習の概要およびアンケートの内容

1．実習の目的

校外実習では，給食業務を行うために必要な食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関し，栄養士として具備すべき知識及び技術を修得することを目的としている[1)]。

この目的は，「栄養士校外実習の手引き」に記載し，学生にはオリエンテーション時に指導している。

2．平成23年度の実習施設と実習期間

平成23年度の2年次実習生総数は159名で，実習施設総数は31であった。その内訳は，病院5施設35名，事業所関係11施設66名，高齢者福祉関係9施設38名，保育園・幼稚園4施設12名，学校給食共同調理場2施設8名であった。1グループの人数は1名～6名と施設により異なっていた。

実習期間は，8月15日から11月11日で，各施設5日間の実習を行った。

3．学生への指導について

学生への指導は，事前指導として，1年次に行う第1回オリエンテーションと2年次の実習直前に行う第2回オリエンテーション，および引率教員による施設別オリエンテーションを実施し，事後指導として，引率教員によるまとめの会を実施した。

＜全体のオリエンテーション＞

第1回オリエンテーションは1年次の2月の学科企画行事の中で，2コマを使って，実習の概要説明，2年次生による体験談発表などを行う。第2回オリエンテーションは，2年次の7月に実習先がほぼ決まってから，1コマを使って実施している。内容は，学長からの激励の言葉，学科長からの実習に臨む姿勢について，教務課による健康診断や検便などの事務手続きについて，また，実習担当者は，実習の意義・目的，実習の具体的な進行，心構え，注意事項などを「栄養士校外実習の手引き」を使って説明する。

＜施設別オリエンテーション＞

7月～8月にかけて，引率教員が施設を訪問して打ち合わせを行う。引率教員は，担当する学生を集め，施設の概要やアクセス，持ち物，課題，注意事項などを説明して指導を行う。

＜事後指導について＞

実習終了後，施設別に引率教員により実施する。学生は実習を終えてのアンケートを記入，引率教員は，施設訪問やノート採点の結果および施設からの評価などを伝え指導を行う。

４．学生に実施した「校外実習を終えてのアンケート」の内容

実習終了後に実施した学生の自己評価アンケートは，以下の５つの質問である。

①実習で得たこと

②実習で実践できたこと

③実習先の指導者から注意や指導を受けたこと

④反省すべき点

⑤来年の実習生へのアドバイス

②の質問は，実習で実践できたと評価できることと，不足していたと思うことについて12項目（マナー，言葉遣い，注意深さ，意欲，積極性，体調管理，誠実さ，時間厳守，私語は慎む，チームワーク，衛生面の自覚と徹底，施設の下調べ）あげ，○×をつけさせるもので，その他の４質問は，自由記述である。

本研究の公開にあたっては，神戸女子短期大学ヒト研究倫理委員会にて承認を得た。

アンケートの集計結果

１．質問②の「実習で実践できたと評価できる項目」についての集計結果

（１）12項目の全学生159名の平均実践率について

学生が実践できたと答えた割合を実践率として12項目別に示したものが，図１である。実践率80％以上の項目は，マナー，言葉遣い，体調管理，時間厳守の４項目であった。実践率60％以上80％未満の項目は，意欲，積極性，誠実さ，私語は慎む，チームワーク，衛生面の自覚と徹底の６項目であった。60％未満は，注意深さ，施設の下調べの２項目で，特に施設の下調べは40％に満たなかった。

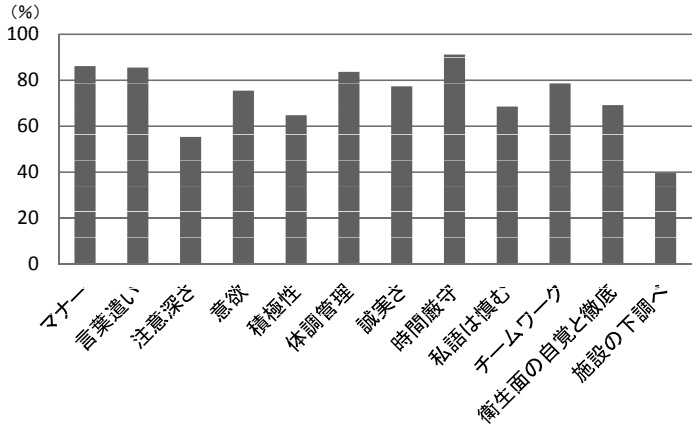

図１　159人の平均実践率

（２）12項目実践率の４施設比較について

施設を給食対象者別に，病院，事業所，高齢者福祉施設（高齢者施設），学校・幼稚園・保育所（子どもの施設）の４つに分類し，12項目の平均実践率を示したものが図２である。実践率が高かったのは病院，次に高齢者施設，事業所，子どもの施設の順であった。

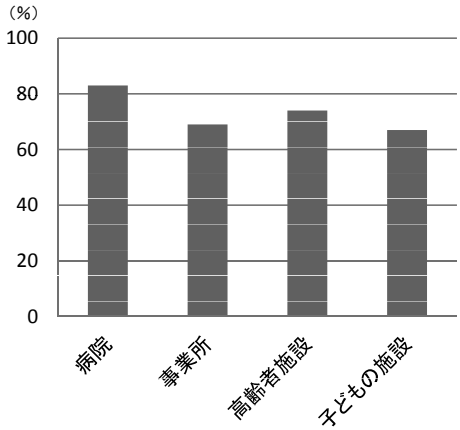

図２　12項目の平均実践率の比較

（３）12項目実践率の４施設間の比較

12項目の実践率を４施設間で比較したものが図３である。実践率を施設間で比較すると，その差が30%以上と大きかったのは，意欲，積極性，施設の下調べの３項目，差が20%以上30%未満は，マナー，誠実さ，私語は慎む，チームワーク，衛生面の自覚と徹底の５項目であった。差が10%以上20%未満と比較的小さかったのは，言葉遣い，注意深さ，体調管理，時間厳守の４項目で，10%未満は見られなかった。

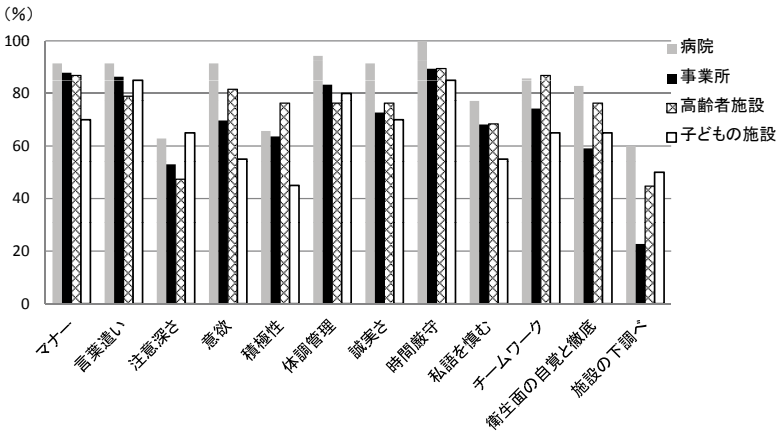

図３　12項目の実践率の施設間比較

（4）12項目を4分類にまとめた場合の実践率の比較

12項目について関連する項目をまとめ4つに分類して比較したのが図4である。マナー，言葉遣い，注意深さ，誠実さ，時間厳守，私語は慎む　の6項目を「基本的姿勢」と分類し，意欲，積極性，施設の下調べ　の3項目を「積極性・自主性」とし，体調管理，衛生面の自覚と徹底　の2項目を「健康・衛生認識」とまとめ，「チームワーク」の4つに分類した。

平均値をみると，どの項目も80%に満たなかったが，「基本的姿勢」と「健康・衛生認識」，「チームワーム」は，75%以上の実践率であるが，「積極性・自主性」が一番低く，60%であった。

以上の（1）（2）（3）（4）の分析をもとに，学生の評価をまとめると，表1のようになる。

表1　学生の自己評価のまとめ

	評価の高低	評価項目
評価高い	実践率　高い 施設間の差　小さい	言葉遣い 体調管理 時間厳守
評価中	実践率　中程度 施設間の差　中程度	マナー 誠実さ 私語は慎む チームワーク 衛生面の自覚と徹底
評価低い	実践率　低い 施設間の差　大きい	注意深さ 意欲 積極性 施設の下調べ

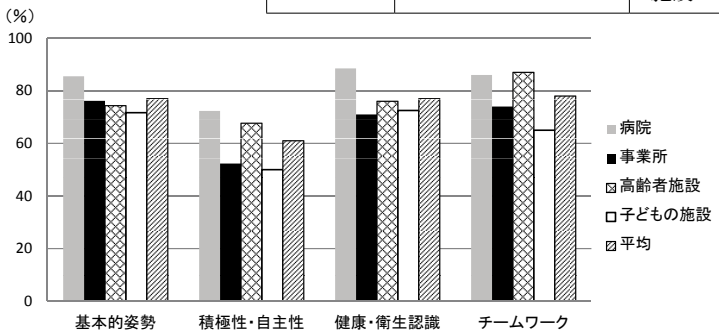

図4　4分類の実践率の比較

2．質問①，③，④，⑤の集計結果

アンケートの回答で，自由に記述させた①実習で得たこと，③実習先の責任者から注意や指導を受けたこと，④反省すべき点，⑤来年の実習生へのアドバイス　について集計した結果，多かった主な内容は次の通りである。

実習で得たことについては（1）衛生面の大切さ（2）チームワークやコミュニケーションの大切さ（3）調理能力の必要性（4）作業効率の大切さが主な内容であった。

実習先の責任者から注意や指導を受けた主な内容は，（1）帽子から髪の毛が出ないように（2）積極的に行動してほしい（3）挨拶や返事の声が小さい（4）機敏に行動してほしいなどであった。

反省すべき点について多かった内容は，（1）積極性がなかった（2）包丁の使い方をもっ

と練習して行けばよかった（3）体調管理をきちんとすべきだった（4）忘れ物をしないようにもっと注意すべきであった（5）聞く態度がよくなかった（6）私語が多かった（7）衛生管理の自覚が足りなかった（8）テキパキと動くべきだった　と8項目あげられた。

来年の実習生へのアドバイスとしては，（1）積極的に行動する（2）体調管理をする（3）挨拶・返事を大きな声ではっきりとする（4）包丁の使い方を練習して行く等であった。

3．引率教員の実習終了後の報告書の内容

実習終了後，引率教員が，各施設別に学生の状況や施設の責任者からの注意事項，アドバイスなどを書面にまとめて記録としている。

その内容から問題点をまとめると次の7項目があげられた。

①怪我人（包丁・スライサー・ピーラーで手を切った，火傷）や，体調不良者が出て，大変迷惑をかけた。

②帽子のかぶり方について注意を受けた。

③態度について注意を受けた（おとなしくて消極的，声が小さい，実習中の携帯電話所持など）。

④忘れ物をして注意を受けた。

⑤言葉遣いで注意を受けた。

⑥服装で注意を受けた。

⑦班長のリーダーシップが欠如していた。

4．上記1，2，3の集計結果のまとめ

上記1，2，3の集計結果をもとに，校外実習における問題点をまとめると，表2のようになった。

考察

学生が校外実習で実践できたかどうかということについて自己評価した12項目の内容をその実践率の高低でまとめたのが表1である。この表から，言葉遣い，体調管理，時間厳守の3項目については実践率が高く，多くの学生が実践できていたと認識している。その中でも一番実践できたと評価しているのは，時間厳守である。一方，注意深さ，意欲，積極性，施設の下調べについては，実践率が低く，実践できていなかったと認識している学生が多く，また，施設間に評価の差がある項目といえる。その中でも，施設の下調べについては，12項目中一番実践率が低く（40%），施設間に差があるが，学生が一番実践できなかったと評価した項目であった。

また，施設間の実践率の比較では，病院が一番高く（80%以上），次に高齢者施設，事業所，こどもの施設の順であった。病院の実践率が高かった理由については定かではないが，事業所

表２　校外実習における問題点のまとめ

４分類	自己評価項目	実践率	注意や指導を受けたこと	学生のあげた反省点	引率教員からの指摘事項
基本的姿勢	・マナー ・言葉遣い ・注意深さ ・誠実さ ・時間厳守 ・私語は慎む	77	機敏な行動 動作が遅い 集合時間を守る 忘れ物 携帯を触らない 聞く態度 指示を守る	忘れ物 聞く態度 私語 テキパキと動く 指示を確認して動く 緊張感を持つ 笑顔で行動	挨拶 言葉遣い 携帯電話 聞く態度 忘れ物 服装
積極性・自主性	・意欲 ・積極性 ・施設の下調べ	61	積極的な行動 挨拶や返事の声の大きさ 元気さ	積極性不足 事前準備不足 挨拶と声の大きさ 積極的な質問 毎日のノート整理	積極性不足 消極的 挨拶や返事の声の大きさ
健康・衛生認識	・体調管理 ・衛生面の自覚と徹底	77	帽子のかぶり方 手袋の扱い方 包丁の安全な扱い方	体調管理不足 衛生管理の自覚不足	帽子のかぶり方 体調不良者 怪我や火傷
チームワーク	・チームワーク	78		班員とのコミュニケーション不足	班長のリーダーシップ欠如
	その他		丁寧な盛り付け 包丁の使い方 記録ノートの書き方	包丁の使い方の練習	

については，特に施設の下調べの実践率が非常に低く（23%），これが大きく影響したのではないかと考えられる。事業所の特徴は１グループの人数が多いため，人に頼りがちになり，自覚や緊張感が薄らいだのではないかと推察する。また，子どもの施設については，意欲と積極性が低かったことが影響して全体が低くなったと考えられる。それは，子どもの施設の中で保育所は１人で実習に臨むので，自己評価が厳しくなったものと推察する。

このように，実習施設やグループの人数など実習条件が評価に影響を与えていると推察できるので，今後そのあたりの条件によって細かく検討することが課題と言える。

さらに，マナーや言葉遣い，体調管理，時間厳守は，学生の自己評価が高かった項目であるが，他の質問である反省点や指導者から注意をうけたことの中に，これらの項目がかなり挙がってきている。また，引率教員の報告書の指摘からも，マナーや言葉遣い，体調管理が問題点として挙げられている。以上のことから，学生の認識と施設側の評価が一致していないところがあると言える。

今後，施設側の求める内容と学生の認識の相違点や，実習施設やグループ人数など実習条件の影響についての検討が必要である。

なお，平成23年度の問題点として多くの指摘があった帽子のかぶり方についての改善策として，平成24年度から帽子の形態を変更して対応した。

まとめ

今回の学生の自己評価の実態から，今後，指導強化が必要な具体的な内容は，以下の６項目

にまとめられる。

①実習に対する意欲や積極性の向上。

②基本的マナーや態度の周知。

③調理技術や盛り付け技術の研鑽。

④衛生管理に対する意識の徹底。

⑤体調管理についての意識の向上。

⑥実習に臨むための基礎学習の充実。

これらの内容は，すべて基本的なことであるため，まず，日常の授業の中で，校外実習を意識した指導を心がけることが必要である。毎日の授業の中で，繰り返しながら基本的姿勢や知識を身につけさせるように，指導の充実を図ることが重要である。

日本栄養士養成施設協会と日本栄養士会の編集で「臨地・校外実習の実際」[2)] がまとめられている。その中に養成施設として出来ることとして，事前学習に十分な時間を取り，予備知識と心構えを教えておくこと，実習施設と十分に協議を行って，施設ごとの実習内容を予め把握することがあげられている。また，学生自らが出来ることとして，実習施設での実習内容を予め把握し，予習や予備練習を行う，同じ施設へ実習に行く班内で，予め打ち合わせや勉強会を行うと示されている。

今一度，オリエンテーションなど事前指導の内容と方法を見直し，改善できるところはないかの検討を行うことが急務の課題であると考える。

また，校外実習を終えてのアンケートは，数年前より実施していたが，今回初めて集計を行った。今後，アンケートの質問内容についても見直したい。

参考文献

1）管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習について，文部科学省・厚生労働省，平成14年４月

2）臨地・校外実習の実際，（社）日本栄養士会・（社）日本栄養士養成施設協会編，平成14年10月